

一人一人の社会的自立に向けた 支援のための家庭の取組

保護者の

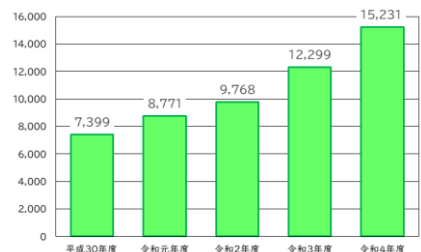
ACTION3!! アクション3



福岡県の不登校は増加しています

本県では、不登校児童生徒数は年々増加しており、令和4年度は、15,000人を超え過去最多となりました。

本県の不登校児童生徒数の推移(国公立小中学校)



不登校はどの子供にも起こる可能性があります

不登校は、その要因・背景に、学校、家庭、そして社会の様々な問題が複雑に絡み合っており、**特定の子供に特有の問題があること**によって起こるのではなく、**どの子供にも起こる可能性があります**。

家庭と学校等の協力は大切です

子供のために家庭と学校等が協力し合うことが大切です。登校しぶりがある等、兆候に気づいた段階で学校へ相談しましょう。

また、**学校ではスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー**といった専門的な知識を有するスタッフと相談することができます。担任や教育相談担当者等を通じて相談を申し込むことができます。

◆さらに、欠席が続くようであれば、学校に加えて、お住まいの市町村の教育支援センターや、市町村や県が設置している相談窓口等に相談することもできます。

不登校の定義

不登校とは、年間30日以上欠席の児童生徒のうち、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること(ただし、病気や経済的な理由によるものを除く)」をいいます

「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

スクールカウンセラーとは・・・

臨床心理の高度な専門性を有する「心の専門家」です。子供や保護者との相談活動を行います。

スクールソーシャルワーカーとは・・・

社会福祉士等の「福祉の専門家」です。福祉機関等と協力して子供たちを支援します。

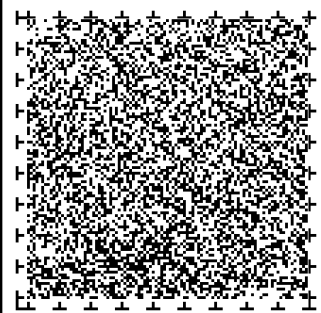
教育支援センターとは・・・

不登校児童生徒が社会的に自立できるように学習や集団への適応等の相談・指導等を行う教育委員会が設置している施設です。

不登校への取組は、**新たな不登校を生まないための取組と不登校になった児童生徒への支援の両方**が大切です。

生活や学びの場である家庭・学校が安全安心な居場所となり、新たな不登校を生まない努力を徹底しながら、不登校の前兆を示すなど初期の段階にある子供の変化に気づき、早期の対応を迅速かつ確に行うことが重要で、これには**家庭・学校の連携が必要**です。そこで、家庭に具体的にどのように取り組んでいけばよいかをまとめたものが、「**保護者のアクション3**」です。ぜひ、家庭と学校の連携を深め、一緒に取り組みましょう。

福岡県教育委員会



一人一人の社会的自立に向けた 支援のための家庭の取組

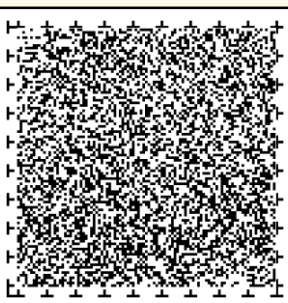
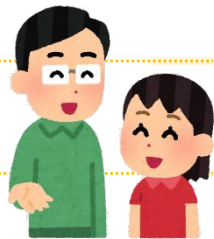
保護者の

ACTION3!!

アクション3

家族で、取り組みましょう！

ステージ1	日常の支援のアクション
アクション1 習慣	<ul style="list-style-type: none"> □ 早寝・早起きを励行し、顔を見ながら挨拶や声かけをしましょう。 □ しっかり食事を取らせましょう。
アクション2 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> □ 毎日、少しの時間でも、子供と会話をしましょう。 □ 子供に、人間関係をつくる経験を積みませましょう。
アクション3 自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> □ 機会あるごとに「あなたは大切な存在である」ことを伝えましょう。 □ 目標に向けて努力する姿勢や過程を認め、ほめましょう。
ステージ2	早期発見・早期対応のアクション
アクション1 早期発見	<ul style="list-style-type: none"> □ 遅刻や欠席日数(月に3日の欠席)に敏感になりましょう。 □ 子供の友達関係、遊び、持ち物、服装などに気を配り、ゲーム・携帯電話・スマートフォンなどの利用状況を把握しましょう。
アクション2 早期対応	<ul style="list-style-type: none"> □ 子供が不調を訴えたら「心配している気持ち」を伝えましょう。 □ 子供の生活リズムに気を配り、規則正しい生活を心がけましょう。
アクション3 学校	<ul style="list-style-type: none"> □ 日頃から担任等と連絡を取り合い、子供の様子を共有しましょう。 □ 学校生活で不安なことや悩みがないか、さりげなく話をしましょう。
ステージ3	不登校になった場合のアクション
アクション1 受容	<ul style="list-style-type: none"> □ 子供からの話は気持ちを受け入れ、最後まで聞きましょう。 □ 大きな変化を期待しすぎず、子供の小さな変化を探し、褒めましょう。
アクション2 支援	<ul style="list-style-type: none"> □ 本人の好きなこと、得意なことから少しずつ関わりましょう。 □ 欠席した日でも規則正しい生活を送るよう心がけましょう。
アクション3 連携	<ul style="list-style-type: none"> □ 継続的に学校と連絡を取り合い、必要な情報を学校と共有しましょう。 □ スクールカウンセラーなどの専門家や教育支援センター等の関係機関に積極的に相談しましょう。



相談窓口紹介

匿名でも相談できます。
秘密は守られます。

家庭で取り組んでいて、
迷ったとき、困ったときには
相談しましょう！

子どもホットライン24
(24時間対応)

0948-25-3434

メールでの相談の場合
hotline24@pref.fukuoka.lg.jp

福岡市こども総合相談センター
(年末年始を除く24時間対応)

092-833-3000

北九州市子ども相談ホットライン
(24時間対応)

093-881-4152

少年サポートセンター
(祝日・年末年始を除く
月～金曜日 9:00～17:45対応)

ハートケア中央 092-833-3000

ハートケア北九州 093-881-7830

ハートケアくろめ 0942-30-7867

ハートケアふくおか 092-841-7830

ハートケアいづか 0948-21-3751